

森にひっそりと咲く、貴重な植物たち～最終回～

○シロテンマ 栃木県絶滅危惧Ⅱ類 環境省絶滅危惧ⅠA類

山地の樹林に生育するラン。前号で取り上げた「エビネ」と同様に、かなり数は少なくななかお目にかかることのできないランです。シロテンマの特徴は「光合成をしない」ところです。今まで紹介したラン達は、共生菌から養分をもらいつつ自ら光合成をしていました。一方、シロテンマは葉緑素を完全に失っており、菌類から養分を略奪して生きているのです。この様な植物を「菌従属栄養植物（腐生植物）」と言います。共生菌に頼り切った生活のため、環境の変化にとても敏感。環境省のレッドデータブックでは「絶滅危惧ⅠA類」に指定されるほど、生存が危ぶまれています。人工的な栽培は不可能とされており、守っていくためには生息地の保全が欠かせません。



全3回に渡って貴重なラン科植物をご紹介してきました。

ラン科植物は南極を除くすべての大陸に生育し、被子植物の中で最も数が多い植物です。しかし、大半が絶滅の危機に瀕しています。菌類と絶妙なバランスで共存しているため環境の変化に弱く、また鑑賞価値も高いため盗掘による被害も少なくありません。この様に、那須平成の森はラン科植物が生育できるほど、とても豊かで多様性に富んだ場所です。こういった場所を残していくようになると良いですね。（西垣）

『森とともにだち展 -アカゲラマンション カぶらき くにかた 個展』開催！

7月14日～9月20日にかけて「森とともにだち展 -アカゲラマンション-」を開催しました。那須平成の森の常連でもある「かぶらき くにかた」さんの詩画集を展示。これは、くにかたさんが那須平成の森のガイドウォークで得た知見や感じたことを、小学校1、2年生の時に絵と詩にしたもの（現在、小学5年生）。

私たち那須平成の森スタッフがガイドウォークでお伝えしている「自然の役割」「自然の繋がり」がとても分かり易く描かれており、ぜひ来園した方々に見ていただきたい、と強く思い開催に至りました。



開催中は、この原画展を目的に来園された方が多くいらっしゃいました。館内に置かれた「感想ノート」は、見学された方々からのコメントでいっぱいになりました。

最後に、原作者であるくにかたさんに、原画展についてインタビューさせていただきました。

Q. 原画展で展示した絵画は、どんな気持ちで描かれましたか？

A. 詩をあってから、その詩に合うように絵を描きました。

その中に、自然の知識を入れられたらしいなと思いつながら描きました。

Q. 那須平成の森の好きな所はなんですか？

A. 来るたびに違う感じ、違う顔を見せてくれるところ。自然がいっぱいあって、生き物の繋がりが感じられるところが好きです。



「那須平成の森 花札」

1月～3月の花札を紹介します。終わりを締めるのは春に向かいます。これで、全48枚の札が完成しました。那須平成の森ならではの自然がこれでもか！と詰め込まれた、季節感たっぷりの花札になりました。実際に遊びながら、もしくはふと眺めながら、自然の移ろいを感じて頂けると嬉しいです。

1月 ウラジロモミ



雪原でのスノーシューはウラジロモミの存在が道案内。

ウラジロモミは日本固有種。ブナ帯を中心に分布する。

ウラジロモミの葉の裏には主脈の両側に白い気孔帶がある。

2月 アカマツ



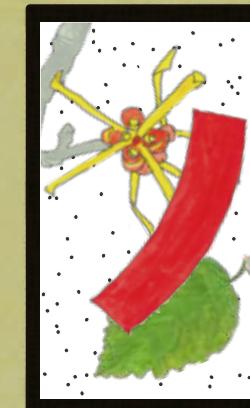
アカマツの下には、二ホンリスが食べた「エビフライ」が。

「松ぼっくり」とはアカマツの球果のこと。

種鱗には2個の種子が付いている。二ホンリスは一枚ずつはがして食べる。

葉っぱは10cm位の2葉性。

3月 マンサク



マンサクが咲く頃の満月に映えるフクロウ。

この頃、セッケイカワゲラはよいしょ、よいしょと川の源流に向かいます。

早春に、他の花より早く「まんづ咲く」のでマンサク。

光沢のある黒っぽい1cmに満たない種子。材は輪かんじきに。